

宇多田ヒカルの歌詞の特徴

6つのアルバムのテキストマイニングによる分析

浦田優香

和光大学 現代人間学部心理教育学科

1. 問題と目的

1.1 はじめに

宇多田ヒカルの曲はヒットしない曲はないといえるほど多くのヒット曲を生み出し、多くの人々に彼女の歌声にのせて独特の歌詞表現を広げた。10代でデビューし、母親の死や自身の結婚出産から離婚まで波乱万丈な人生がその歌詞に表れている。デビューから現在までの彼女の来歴と楽曲発表の時期を重ね合わせると宇多田ヒカルという人物の心情が歌という方法でどのように表現されるかが伝わってくる。

およそ人生の半分近くをミュージシャンとして活動している宇多田ヒカルの作成した楽曲がまとめられたアルバムは、文字通り宇多田ヒカルという人物の半生を表したものであり、今もなお活動を続けては世界中の多くの人に愛され続ける理由がそこに詰まっている。

1.2 目的

本研究の目的は、宇多田ヒカルが歌詞を通じて表現しようとしたことをアルバム収録曲の年代別での変化を明らかにすることである。

1999年から2016年までに発売された宇多田ヒカル名義のアルバム収録曲の歌詞から、宇多田ヒカルの人生と心境の変化を明らかにすることである。

2. 方法

2.1 分析対象：1999年から2016年までに発売された宇多田ヒカル名義のアルバム収録曲の歌詞を分析の対象とした。

宇多田ヒカル名義で出した6つのアルバムに収録されているものの中で歌詞がないInterludeを除いた74曲を分析した。また、アルバム収録曲は楽曲発表よりも後に収録されたものであり、楽曲の発表年度とのズレもある。

2.2 分析方法

これら74曲をテキスト化し、Text Mining Studio Ver. 5.2により、テキストマイニングの手法を用いて歌詞の分析を行なった。歌詞のデータは、ID、アルバム、曲目、タイトル、本文歌詞をデータとして入力した。

分析は、単語頻度解析、対応バブル分析、特徴語抽出の順に行なった。なお、分析を行う際にアルバム別に属性を分け、それぞれの分析を行なった。

3. 結果

3.1 基本情報

分析対象の総曲数は、74 曲であった。一曲当たりの歌詞の文字数は 327.5 文字であった。内容語の延べ単語数は 8136 で、単語種別数 2247 だった。

3.2 単語頻度解析

名詞・形容詞・動詞の単語頻度解析を行なった結果を図 1 に示す。名詞の単語頻度解析を行なった結果を図 2 に示す。形容詞・形容動詞の単語頻度解析を行なった結果を図 3 に示す。動詞の単語頻度解析を行なった結果を図 4 に示す。

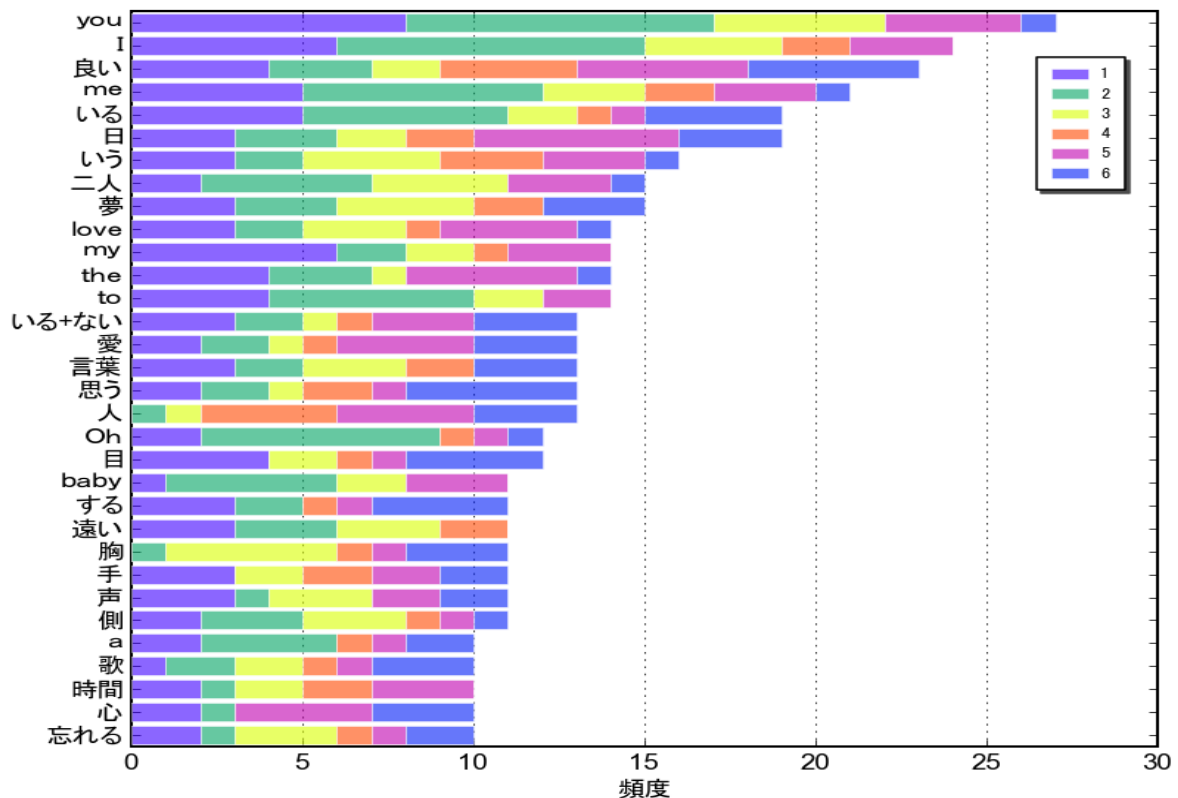


図 1 単語頻度解析：名詞・形容詞・動詞 (アルバム別曲数)

アルバム別の歌詞において、出現曲数の多い上位 32 位の単語は図 1 の通りである。最も頻度が高かったのは「you」であり、6 つのアルバム全体で 27 曲に使用されており、アルバム 1 から順番に 8 曲、9 曲、5 曲、0 曲、4 曲、1 曲に使用されている。それに続き頻度が高かったのは「I」であり、6 つのアルバム全体で 24 曲に使用されており、アルバム 1 から順番に 6 曲、9 曲、4 曲、2 曲、3 曲、0 曲に使用されている。続いて「良い」であり、6 つのアルバム全体で 23 曲に使用されており、アルバム 1 から順番に 4 曲、3 曲、2 曲、4 曲、5 曲、5 曲に使用されている。そして 4 番目に「me」であり、6 つのアルバム全体で 21 曲に使用されており、アルバム 1 から順番に 5 曲、7 曲、3 曲、2 曲、3 曲、1 曲に使用されている。

図 1 の通り、名詞・形容詞・動詞では、「you」、「I」、「me」アルバム 1 と 2 では多く見られた。

アルバム 1、2、5、6 では「愛」の頻度が多かったが、アルバム 3、4 は頻度が少なかった。

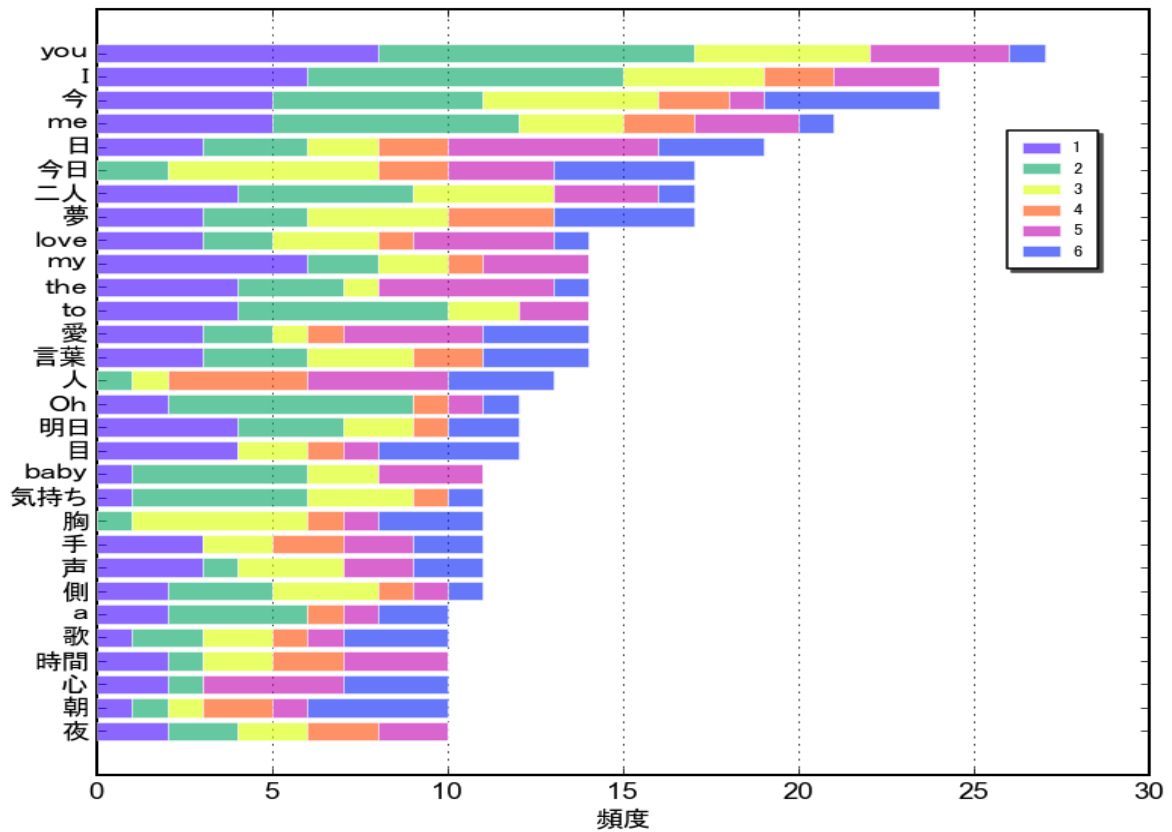


図2 単語頻度解析：名詞（アルバム別曲数）

アルバム別の歌詞において、出現曲数の多い上位30位の名詞は図2の通りである。最も頻度が高かったのは「you」であり、6つのアルバム全体で27曲に使用されており、アルバム1から順番に8曲、9曲、5曲、0曲、4曲、1曲に使用されている。それに続き頻度が高かったのは「I」であり、6つのアルバム全体で24曲に使用されており、アルバム1から順番に6曲、9曲、4曲、2曲、3曲、0曲に使用されている。次に頻度が高かったのは「今」であり、「I」と同じく6つのアルバム全体で24曲に使用されており、アルバム1から順番に5曲、6曲、5曲、2曲、1曲、5曲に使用されている。そして4番目に「me」であり、6つのアルバム全体で21曲に使用されており、アルバム1から順番に5曲、7曲、3曲、2曲、3曲、1曲に使用されている。そして5番目に「日」であり、6つのアルバム全体で19曲に使用されており、アルバム1から順番に3曲、3曲、2曲、2曲、6曲、3曲に使用されている。

図2の通り、名詞では、「you」、「I」、「今」アルバム1と2では多く見られた。

アルバム6で「朝」の頻度が多かったが、「夜」は使用されていない。

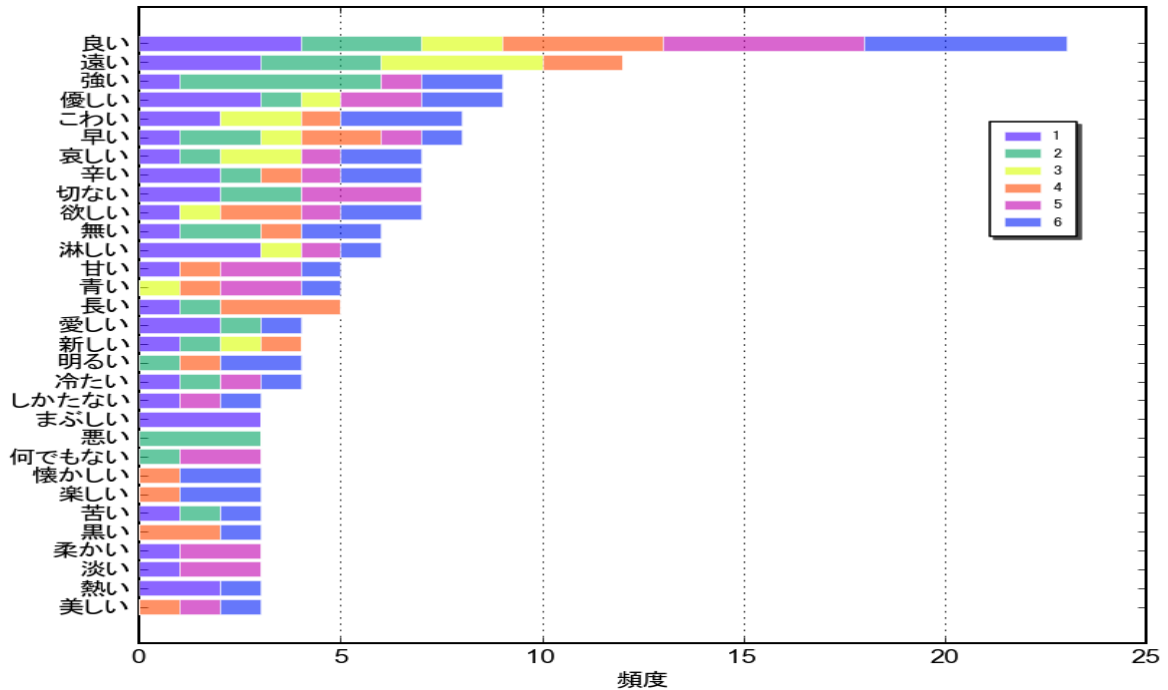


図3 単語頻度解析：形容詞・形容動詞（アルバム別曲数）

アルバム別の歌詞において、出現曲数の多い上位31位の形容詞・形容動詞は図3の通りである。最も頻度が高かったのは「良い」であり、6つのアルバム全体で23曲に使用されており、アルバム1から順番に4曲、3曲、2曲、4曲、5曲、5曲に使用されている。それに続き頻度が高かったのは「遠い」であり、6つのアルバム全体で12曲に使用されており、アルバム1から順番に3曲、3曲、4曲、2曲、0曲、0曲に使用されている。続いて「強い」であり、6つのアルバム全体で9曲に使用されており、アルバム1から順番に1曲、5曲、0曲、0曲、1曲、2曲に使用されている。そして4番目に「優しい」であり、「強い」と同じく6つのアルバム全体で9曲に使用されており、アルバム1から順番に3曲、1曲、1曲、0曲、2曲、2曲に使用されている。

図3の通り、形容詞・形容動詞では、「良い」がすべてのアルバムで多く見られたが、続く「遠い」「強い」「優しい」では使用されていないアルバムもあった。

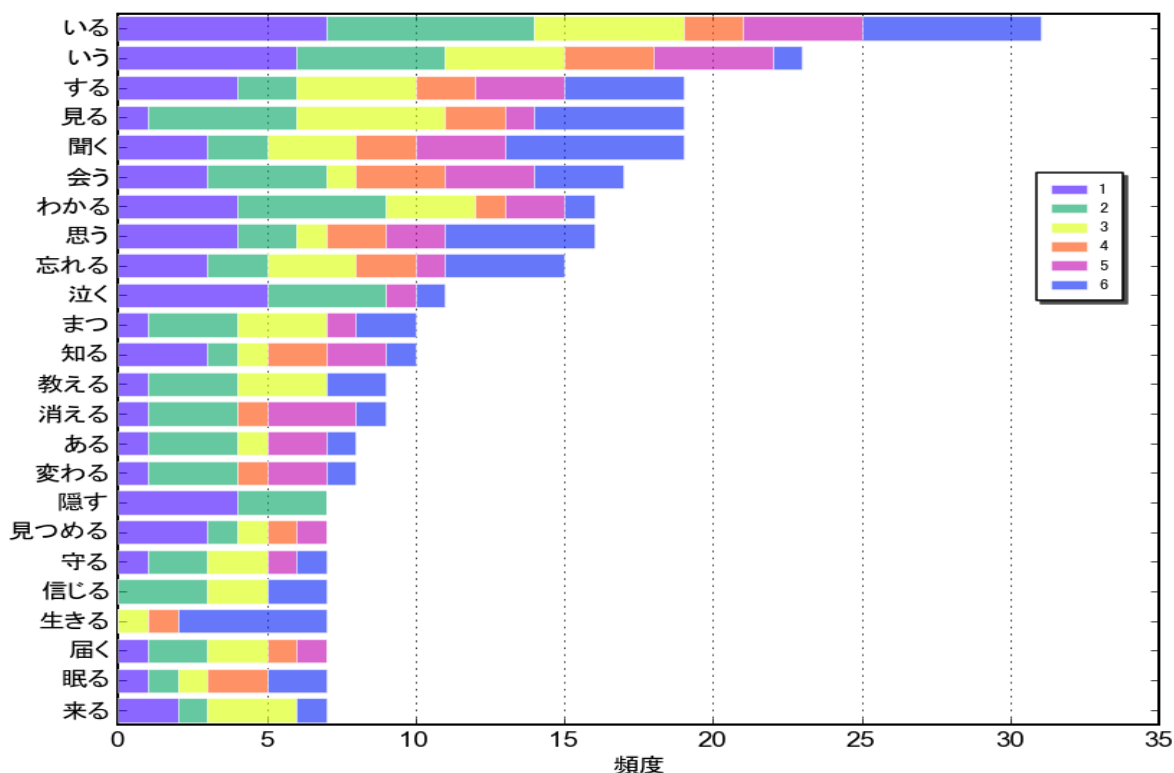


図4 単語頻度解析：動詞 (アルバム別)

アルバム別の歌詞において、出現曲数の多い上位24位の動詞は図4の通りである。最も頻度が高かったのは「いる」であり、6つのアルバム全体で31曲に使用されており、アルバム1から順番に7曲、7曲、5曲、2曲、4曲、6曲に使用されている。それに続き頻度が高かったのは「いう」であり、6つのアルバム全体で23曲に使用されており、アルバム1から順番に6曲、5曲、4曲、3曲、4曲、1曲に使用されている。続いて「する」「見る」「聞く」であり、6つのアルバム全体で19曲に使用されている。「する」はアルバム1から順番に4曲、2曲、4曲、2曲、3曲、4曲に使用されていて、「見る」はアルバム1から順番に1曲、5曲、5曲、2曲、1曲、5曲に使用されていて、「聞く」はアルバム1から順番に3曲、2曲、3曲、2曲、3曲、6曲に使用されている。

図4の通り、動詞では、全体的にアルバム4で単語頻度が少なくほかのアルバムと差が見られた。

アルバム4では「泣く」「まつ」は見られなかった。

3.3 対応バブル分析

アルバム別の頻出単語との関係を示すため、「名詞・形容詞・動詞」「名詞」「形容詞」「動詞」で対応バブル分析を行った。図5はアルバム別の頻出単語(名詞・形容詞・動詞)との関係を示す対応バブル分析である。図6はアルバム別の頻出単語(名詞)との関係を示す対応バブル分析である。図7はアルバム別の頻出単語(形容詞)との関係を示す対応バブル分析である。図8はアルバム別の頻出単語(動詞)との関係を示す対応バブル分析である。

全体としてアルバム1、2、3は、頻出単語にまとまりを感じるがアルバム4、5、6ではばらつきが見られた。

図5はアルバム1、2、3では、英語が使われる頻度が高い結果となったが、アルバム4、5、6では日本語の歌詞が多く見られた。図6は名詞のみでの分析ではアルバム1、2で英語が使われる頻度が高い結果となったが、アルバム3、4、5、6では日本語の歌詞が多く見られた。図7はアルバム5は、他のアルバムと離れる結果となった。図8はアルバム1、2、3、4、6では、人にまつわる単語で集まる結果となった。

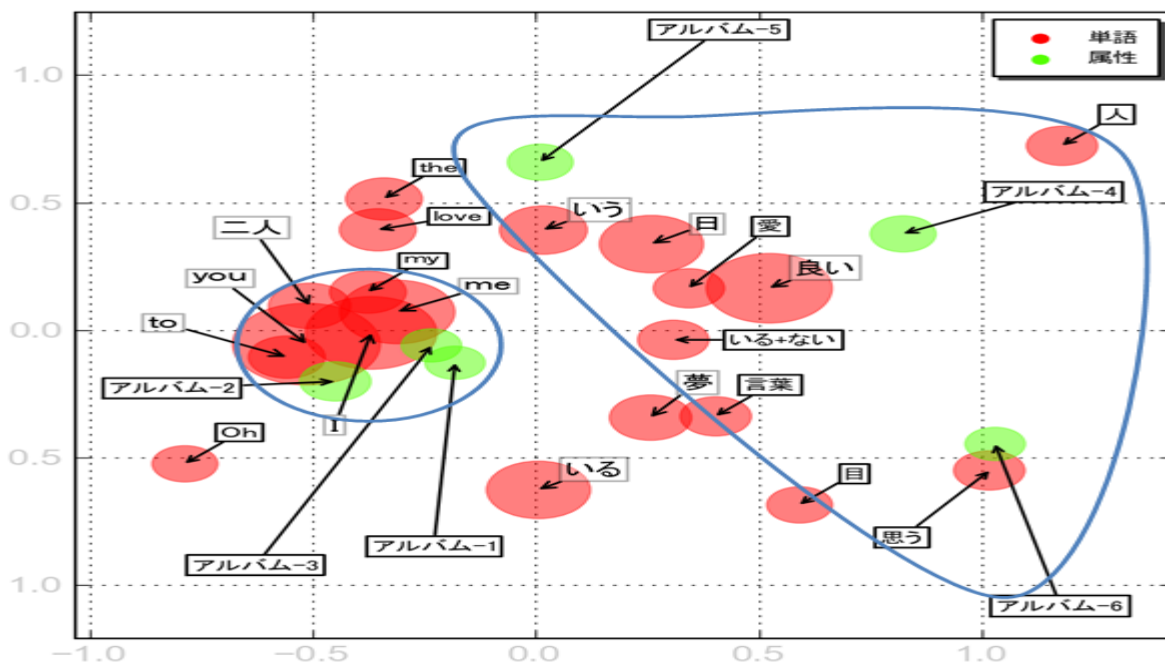


図5 アルバム別の頻出単語曲数(名詞・形容詞・動詞)との関係を示す対応バブル分析

アルバム別の頻出単語曲数(名詞・形容詞・動詞)との関係を示す対応バブル分析を行なった結果、図5のような結果となった。アルバム1、2、3では「I」「to」「you」「二人」「my」「me」が頻繁に使用されている。アルバム4では「人」が特に頻繁に使用されている。アルバム5ではほかに比べ特筆した単語は見られなかった。アルバム6では「思う」が特に頻繁に使用されていることが明らかとなった。

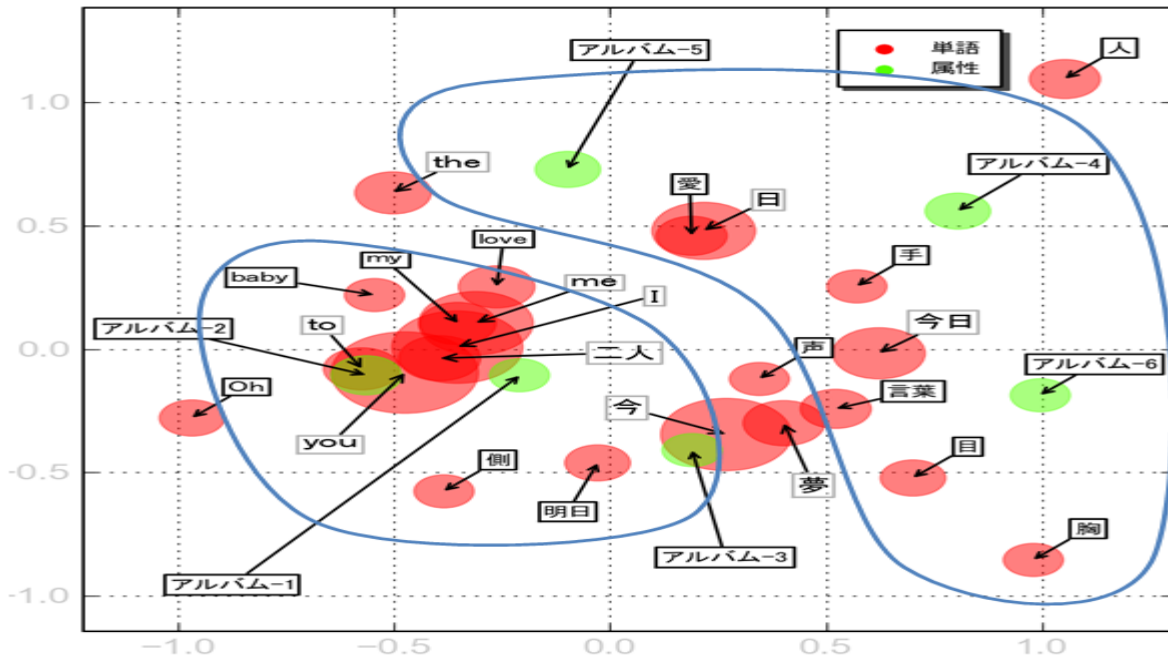


図6 アルバム別の頻出単語曲数(名詞)との関係を示す対応バブル分析

アルバム別の頻出単語曲数(名詞)との関係を示す対応バブル分析を行なった結果、図6のような結果となった。アルバム1、2では「I」「to」「you」「二人」「my」「me」「baby」「love」が頻繁に使用されていて、英語の歌詞が多く使われていた。アルバム3では「今」や「明日」などの時間に関連した単語が特に頻繁に使用されている。アルバム4では「人」が特に頻繁に使用されている。アルバム5では「愛」と「love」が近くにあり、愛情に関する単語が多く使用されている。アルバム6では「手」「声」「目」「胸」という体に関する言葉が集まっているのが特徴的であることが明らかとなった。

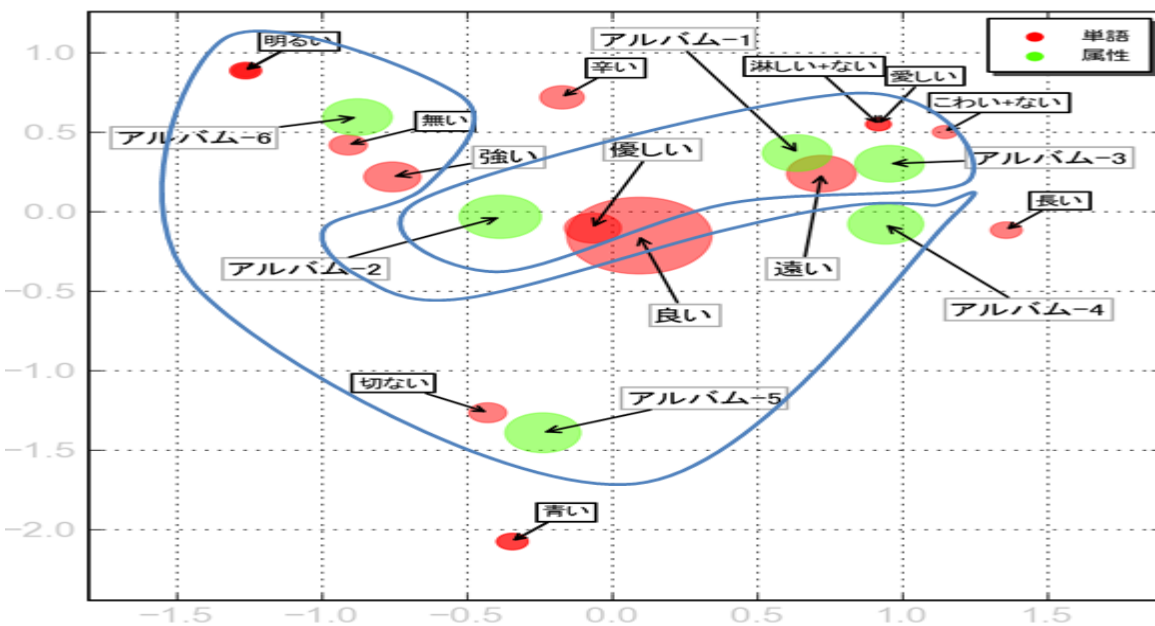


図7 アルバム別の頻出単語曲数(形容詞)との関係を示す対応バブル分析

アルバム別の頻出単語曲数(形容詞)との関係を示す対応バブル分析を行なった結果、図7のような結果となった。アルバム1、2、3、4は「愛しい」「優しい」などポジティブな単語や「淋しい+ない」「こわい+ない」というネガティブな単語を否定するような言葉が頻繁に使用されている。アルバム5では「切ない」というネガティブな単語が頻繁に使われ、アルバム6では「明るい」「強い」というポジティブな単語と「無い」「辛い」というネガティブな単語が混在していることが明らかとなった。

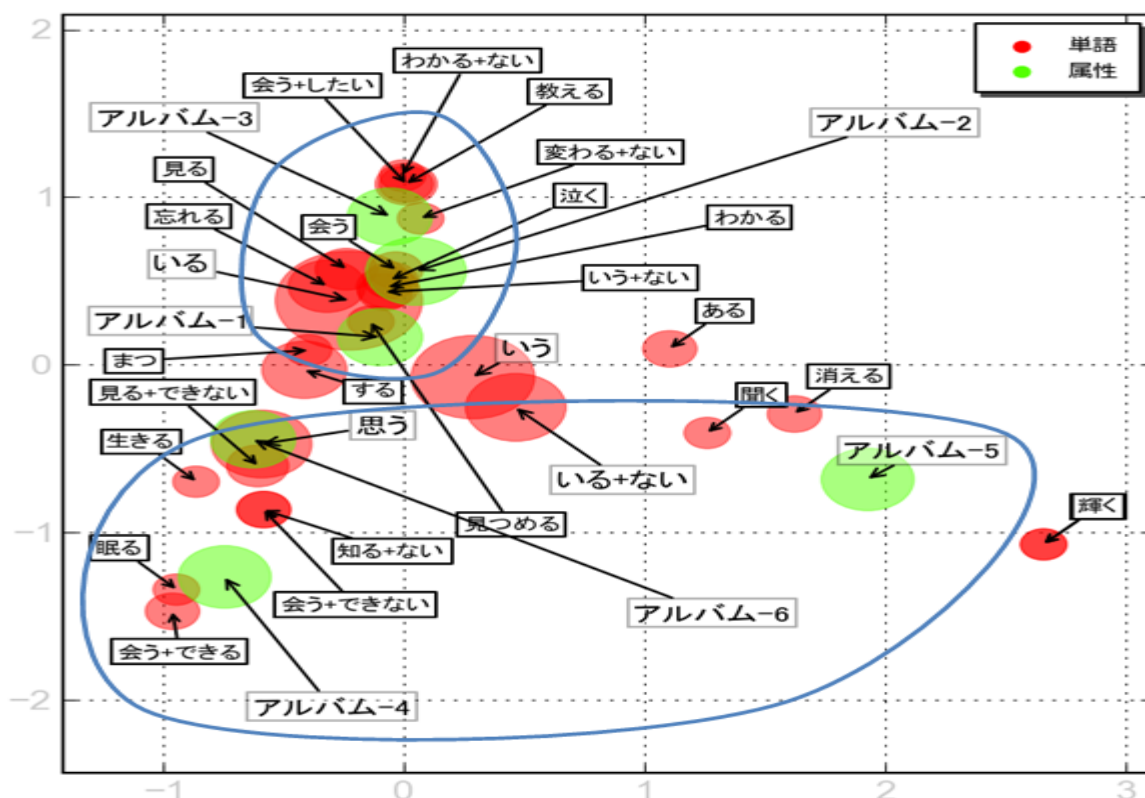


図8 アルバム別の頻出単語曲数(動詞)との関係を示す対応バブル分析

アルバム別の頻出単語曲数(動詞)との関係を示す対応バブル分析を行なった結果、図8のような結果となった。アルバム1、2、3では同じような動詞が頻繁に使用されている。アルバム4、5、6ではアルバム1、2、3と違う特徴的な単語を使用していることが明らかとなった。

3.4 特徴語抽出

各アルバムの頻度上位20位を対象とした名詞・形容詞・動詞の特徴語抽出を行なった結果、アルバム1の上位5つは、「いう+ない」(5/7曲)、「my」(6/14曲)、「you」(8/27曲)、「will」(4/5曲)、「わかる」(4/8曲)の順になった。アルバム2の上位5つは、「Oh」(7/12曲)、「I」(9/24曲)、「you」(9/27曲)、「強い」(5/9曲)、「to」(6/14曲)の順になった。アルバム3は、「胸」(5/11曲)が一番頻度が高く、次に「風」(3/3曲)、「話す」(3/4曲)、「来る」(3/5曲)、「急」(3/6曲)、「空」(3/6曲)、「不安」(3/7曲)の単語の頻度が3で並んだ。アルバム4は、「頑張る」(3/4曲)、「色」(3/5曲)、「長い」(3/5曲)が単語の頻度が3で並び、次に「人」(4/13曲)、「会う+できる」(3/7曲)の順になった。アルバム5の上位5つは、「of」(4/5曲)、「日」(6/19曲)、「the」(5/14曲)、「いく+ない」(3/3曲)、「心」(4/10

曲)の順になった。アルバム6は、「見る+できる」(4/5曲)、「生きる」(4/6曲)が単語の頻度が4で並び、次が「思う」(5/13曲)、その次に「奥」(3/4曲)、「身」(3/4曲)、「聞く+できる」(3/4曲)が単語の頻度が3で並ぶ順になった。

4. 考察

4.1 宇多田ヒカルの6つのアルバムは大きく2つに分類できる

(1) 宇多田ヒカルの6つのアルバムの全体的特徴

6つのアルバムの歌詞を貫く特徴は、第1にストーリー性であり、第2に愛やloveという単語で表される親密な人間関係である。また第3にその生育歴に基づく日本語と英語あるいは日本文化と米国文化の2つの間を自由に行き来し、往復し、統合するというメンタリティである。

(2) アルバム1、2、3とアルバム4、5、6には大きな違いがある

今回の分析から特に、対応分析に基づいて宇多田ヒカルの6つのアルバムは前期(アルバム1、2、3)後期(アルバム4、5、6)の二つに大きく分類できるという仮説を生成した。前期の特徴といえば集中性、一途さ、ひたむきさ、一本気などの日本語で表されるような特徴である。これに対して後期の特徴といえば、多様性、柔軟さ、やわらかさ、遊び心といったような特徴である。前期から後期へのシフトについては人生の経験や困難を経た人間的成長が背景にあると考えられる。

4.2 宇多田ヒカルの前期(アルバム1~3)から後期(アルバム4~6)への人生の転換

さて、前期の特徴から後期の特徴への移行の原因あるいは理由は何であろうか。それについて以下のような考察を行った。

結婚や離婚、肉親の死を経験したことによって人生が大きく転換しただろう。

16歳でアルバム1を発売し、次にアルバム2を発売し、その翌年には卵巣摘出手術を受けた。手術は成功するも体調不良により休養し、その後アルバム3を発売した。アルバム3発売の3か月後に写真家であり映画監督でもある紀里谷和明と結婚した影響でアルバム3の収録曲には恋をしていて幸せをつかみながらいる様子が歌詞に表れている。

結婚をしてから4年後である2006年にアルバム4を発表したが、離婚を感じさせる歌詞や不満などが書かれて、その翌年には紀里谷和明と離婚。それによって二人の関係が遠ざかっていった。すれ違いといった印象のネガティブな歌詞がその後の宇多田ヒカルの歌詞にも表れている。続いて離婚から1年後にはアルバム5を発表。離婚を経験した宇多田ヒカルが恋愛に肯定的な歌詞も書いてはいるが迷いや傷つくことを匂わせる楽曲を作っている。また、母に対しての歌詞もあり、私生活においてでの恋愛以外の宇多田ヒカルが抱えるネガティブな感情が現れた楽曲もあった。最後のアルバム6では亡き母への思いをつづったものや婚約者となるイタリア人の男性との関係を描いたものがあり、肉親の死と新たな家族とのつながりが生まれたというネガティブな歌詞とポジティブな歌詞が入り混じったアルバムとなっている。

以上のように考察してみた。宇多田ヒカルの人生は現在進行形であり今後新たな展開が待っているで

あろう。

4.3 本研究の限界と今後の課題

今回の研究では宇多田ヒカルの発売したアルバムに収録された楽曲が分析の対象であったが、アルバムは宇多田ヒカルの発表した楽曲のすべてを収録しているものではなく、またすべてが発表した順に収録しているわけではないためにより正確な宇多田ヒカルの来歴と重ねるにはすべての楽曲を発表順に分析する必要がある。さらには英語の歌詞については訳し方によっては作詞者の意図した意味とは差異が生まれてしまう可能性が十分にあり、断定してより正確な分析をすることができなかった。さらに今後の課題として、宇多田ヒカルの発表曲をすべて分析するには宇多田ヒカルが他の名義での活動時の発表曲も分析する必要があるだろう。しかし、宇多田ヒカルはアルバム 4 発表から 1 年も経たずに離婚を発表したことやアルバム 5 の発表後にアーティスト活動を止めて人間活動をするというブログで明かした経験があり、シングル曲だけではわからない節目節目の宇多田ヒカルの心境を明らかにした。この分析によって若年から様々な経験を得た宇多田ヒカルの楽曲を通し、共感した多くの人たちの心境も同時に分析する足掛かりを得れたと言えるだろう。

5. 結論

アルバム 1、2、3 とアルバム 4、5、6 と大きく区別することができ、宇多田ヒカルの人生の転機を見極めることができた。アルバム 4 を発売したころからネガティブな歌詞を使うことが多くなり、このころから宇多田ヒカルにとって歌詞表現を左右するような出来事があった証明でもある。人生において山場であったりどん底であったりと浮き沈みが存在するが、離婚や肉親の死を経た宇多田ヒカルの人生の推移をインタビューなどのコメントなどの取り繕ったコメントではない歌詞から直接心象を分析したのはとても意義があるものである。

宇多田ヒカルの恋愛や両親との関わり合いを理解するための手がかりとして、歌がある。時にはミリオンヒットにもなった宇多田ヒカルの歌はそれだけ多くの人にも通じる恋愛観や人生観とも言える。これを分析することは重要であり、こういった歌詞の分析において、テキストマイニングのような定量的分析は、有効であると考えられる。

6. 謝辞

本論文を作成するにあたり、指導教員の伊藤武彦先生及び伊藤ゼミ生の関川巧真、早川尚貴、宮崎大樹から長時間に渡り、熱心にご指導頂いたことに感謝します。

7. 文献

Wikipedia 宇多田ヒカル

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%87%E5%A4%9A%E7%94%B0%E3%83%92%E3%82%AB%E3%83%AB> (2016年10月28日取得)

8. 付録 年譜

1983年1月19日	生誕
1998年12月9日	宇多田ヒカルとしてデビュー
1999年3月10日	1 st アルバム「First Love」
2001年3月28日	2 nd アルバム「Distance」
2002年4月	卵巣の摘出手術を受ける。術後も体調不良により休養。
6月19日	3 rd アルバム「DEEP RIVER」
9月6日	写真家で映画監督の紀里谷和明と結婚
2006年6月14日	4 th アルバム「ULTRA BLUE」
2007年3月2日	離婚
2008年3月19日	5 th アルバム「HEART STATION」
2010年8月9日	年内をもってアーティスト活動を止めて人間活動するとブログで発表
2013年8月22日	母 藤圭子が自殺
2014年5月	イタリア人の一般男性と再婚
2015年7月3日	第一子（男児）を出産したことを発表
2016年9月28日	6 th アルバム「Fantôme」